

地震に備えて (5)

危険な場所からはすぐに離れて



地震の大ゆれがおさまったからといって安心はできません。山ぎわ、がけ近く、川のふち、造成地などに住んでいる人は、次のことに注意してください。

(1) 山津波・がけ崩れに注意!

山ぎわやがけ近くに住んでいる人は、キ裂や山鳴り、異常な湧水があったら崩れる前兆ですからすぐに避難してください。

(2) 浸水に注意!

地震動によって、堤防の欠壊などがあると、そこから濁流が押しよせます。特に河床より低地に住んでいる人は堤防にキ裂があったら要注意

すぐに避難してください。

(3) 感電に注意!

避難する際、切断された電線があったら要注意、地震が発生したらからといってすぐに送電が止まるとは限りません。絶対にさわったりしてはいけません。

(4) 余震に注意!

大ゆれによって被害がないからといってすぐに家に戻ってはいけません。がけの場合などは、本震や余震で崩れやすくなっています。そのあと続くゆれに注意し、安全が確認されるまでようすをみましょう。

「がけ崩れ日頃の監視と早目の避難」

毎年、がけ崩れにより多くの人命財産が失われています。私達の思いもよらないところに危険ながけ地がたくさんあり、災害があとをたちません。自分自身を守るために、もう一度まわりを見なおしましょう。

- ▶ 傾斜の角度が30度以上のがけ
- ▶ 高さが5m以上のがけ
- ▶ 斜面の地割れ、湧水のにごり、水のふき出し、石がパラパラ落ちるようながけ
- ▶ 上部がおおいかぶさっているがけ

- ▶ よう壁や石垣に割れ目のあるようながけ
 - ▶ 以前に崩れたことのあるがけ
- 以上のようながけ地が近くにありましたら特に注意してください。



季節の手づくり料理を実習 『くらしのエプロン教室』ひらく

毎日の家事や育児などにおわれ、消費生活に対する関心はあってもなかなか学習する機会のない主婦を対象に、市商工課では「くらしのエプロン教室」を開きました。

この「エプロン教室」は、今回が初めての試みで、



5月24日大淵公民館で大淵地区のお母さんたち50余名が真白いエプロン姿で、県消費生活課の藤森進先生を講師に「食品のもつ公害」についての講演を聞いたあと、「季節の手づくり料理」を吉永

栄養料理学校の宮川とも子先生を囲んで実習を行いました。

なお、市商工課では、この「くらしのエプロン教室」が各地域で開催してほしいと人気を呼んでいるので各地域の公民館で開催できるよう検討しています。

記事訂正

5月25日発行のNO227号広報ふじ2面の「税制改正のお知らせ」の記事中、夫婦と子ども2人の4人世帯(標準世帯)の給与所得者の場合「所得税がかからなくなりました」は誤りで、「市・県民税がかからないことになりました」に訂正します。